

岡山・米田遺跡^{よねだ}

- 1 所在地 岡山市米田
- 2 調査期間 一九九三年(平5)四月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 岡山県古代吉備文化財センター
- 4 調査担当者 岡田 博・延堂 守
- 5 遺跡の種類 集落跡・河道跡・水田跡
- 6 遺跡の年代 古代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(岡山北部)

米田遺跡は、弥生時代前期から近世にかけての集落が発掘され、多くの成果が得られた百間川米田遺跡の北側に位置しており、それと一体となる、広大な複合遺跡である。遺構は海拔一・二mの微高地に形成された集落と低位部・河道からなっている。

微高地は砂堆ともいふべき微砂質の基盤層上面に形成され、鎌倉時代に比定される掘立柱建物二棟・井

戸・土坑・柱穴群などの遺構が検出された。

河道はほぼ東西方向を示し、北側にも集落の存在を示唆する橋脚が四本遺存していた。この橋脚付近では、鎌倉時代前葉の土師器・輸入陶磁器のほか、瓦・木製品・貝殻などが出土している。小型卒塔婆が、この橋脚の西五mの河底近くから出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「南無大慈□自在□」

196×16×11 061

上端は尖らせて左右対称に二カ所ずつの切り込みを入れ、下端はさらに鋭く尖らせる。書き慣れた文字は墨の残りが比較的鮮明である。橋脚遺構の近くから出土したことからすると、施餓鬼会に使われたもので、行き交う人々の供養によって追善し成仏させようと、橋梁付近で使われたとみられる。

9 関係文献

岡山県教育委員会『米田遺跡—米田排水機場建設(湛水防除事業東岡山地区)に伴う発掘調査』(岡山県埋蔵文化財発掘調査報告一〇二)(一九九五年)

(岡田 博)

